



いざ！という時に自分たちでできることを体験

浜松市小松栄町



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一 等空佐） 浜北募集案内所は、12月1日（日）、浜松市地域防災訓練（小松栄町町内会）に参加した。防災訓練には子どもから大人まで幅広い世代の約1700人が参加することから、浜北所は住民の防災意識向上にどのよう貢献できるか、特に「自助・共助」に重きを置いた実施内容について、事前に町内会長等と検討して本番に臨んだ。

訓練当日の午前9時、一斉に携帯や防災スピーカーから避難準備情報の訓練警報が鳴り響き、訓練が開始。会場の公民館に集まった住民に、浜北所長の星香織3等陸尉が、自衛隊が地区の防災訓練に初めて参加するにあたり、住民の防災意識の高さに改めて敬意と謝辞を伝えた。

訓練前半は、主に中学・高校生ら約40人に自衛隊の災害派遣活動を紹介して具体的な防災活動を知ってもらうとともに、小学生約20人には浜北所の十八番、身近なもので作る防災グッズの「新聞シリーズ」として、けが防止用スリッパの作成を体験してもらった。

後半は、担架搬送訓練として、身近にある物干し竿でも担架が作れることや、搬送時にはリーダーが重要で、迅速かつ安全な搬送には的確な指示による全員一致した行動が不可欠であることを説明。実際に高校生にリーダー役を決めてもらい、担架作成から搬送までを繰り返し練習した。さらにロープワークの体験もあり、参加者は命綱にもなる「もやい結び」を、真剣な中にも楽しみながら練習していた。

住民からは「過去にはない実践的な訓練ができて安心感が高まった」「自衛隊の災害派遣活動を具体的に知ってからは、防災への取り組みの大切さがかかった」などの声が寄せられた。

静岡地本は、今後も積極的に地域住民と交流し、幅広い世代との「絆」を大切にして、自衛隊に対する信頼を深めてもらえるよう努めていく。

サッカー選手も自衛隊を広報

J3シーズン最終戦

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一 等空佐）は、12月8日（日）、沼津市愛鷹広域公園の多目的競技場で行われた、J3リーグシリーズ最終戦「アスルクラロ沼津対カタレ富山」戦において、自衛官の募集及び自衛隊の広報を行った。これは、地元のJ3サッカーチームであるアスルクラロ沼津からの依頼により実現したもの。

当日は快晴の下、競技場入り口前に自衛隊ブースを開設し、陸上自衛隊小型トラックの展示、各種制服・迷彩服試着コーナー、ゲームによる自衛隊グッズプレゼントコーナーを設置したほか、自衛隊の各種活動を紹介する写真パネルを展示した。

試合開始前には、元日本代表の中山雅史選手、チーム一のイケメン清水光選手や深井祐希選手らが自衛隊ブースを訪れ、観戦に来た子供たちや若者に自衛隊広報グッズを直接プレゼント。自衛隊ファンのみならず、サッカーファンも大いに喜ばせた。

また、パネル展示では、先の台風被害に対応した災害派遣活動を紹介。来場者の中には「将来、人命救助に携わりたい」という目標を持った若者もあり、来年1月18日に試験が実施される高等工科大学（陸上自衛官を目指す自衛隊の国立高校）や、18才から32才までが志願できる自衛官候補生（任期制隊員）などの説明を広報官が行った。一緒に説明を聞いていた保護者からも具体的な生活などについて質問が多く寄せられ、広報官が一つひとつ丁寧に対応した。

静岡地本は、今後も地元の団体等と密接に連携して、特に自衛官候補生制度を広く紹介した募集広報に努めていく。

